

徳成寺 寺とモかわら版 第206号 2024年2月



-発行責任者-

住職
大山健児
坊守

大山ひとみ

いつもありがとうございます。住職の大山です。

受験シーズン本番ですね。灘中・灘高・東京大学

ハーバード大卒、全国最年少で現芦屋市長の高島峻輔さんは、

受験勉強で一つだけやって欲しいのは「振り返り」と仰っています。

試験の帰りの電車で「前日に調べた箇所が出題された」「計算ミスをして

しまったかも」などスマホにメモしていたそうです。テストが返って来たら

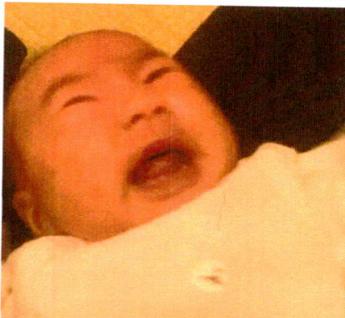
「思った通りケアレスミスをしていた」など、振り返りを更新し、次のテストで

何に気を付けるべきか書いて臨んだのだとか。「振り返り」の大事さは、同じ過ちを

繰り返さない点にあると思われませんが、能登半島地震では、避難した被災者の姿が

29年前の阪神淡路大震災の頃と変わっていないと、当時の兵庫県の担当者が語って

いました。東日本・熊本と何度も「振り返る」機会はあったにもかかわらずです。



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっております、副住職です。娘がこの世に生まれて1ヶ月経ちました。健診に連れて行くと標準的な発育であるとお医者さんに診断され、ホッとしております。

元気に育てられていることに感謝しつつも、昼夜が逆転しているようで、夜になると何が気に触るのか大きな声で元気いっぱい泣いております。赤ちゃんは泣くのが当たり前なので根気強く向き合わなければいけない事は頭では分かっています。

でも、本音を言うと早く眠ってくれ…と祈る自分が大きくなります。ままならない事に折り合いをつけながら育児をしてきた世の中の親御さんは本当にすごいと改めて思いました。写真は昼間に偶然とれたニコニコ顔と元気いっぱいの夜泣きの娘です。どちらの顔もチャーミングですが、今の所1:9の割合で泣き顔ばかりですから、時々見せる笑顔に導かれて、受け入れていくのかなと感じました。早く笑顔が増えるようにと身勝手に思うこの頃です。